

天空の診療所でのボランティア

看護師 松井 由杏



8月6日から10日まで標高2,600mの双六診療所でのボランティア活動に、当協会から増山医師、金山放射線技師、松井看護師が参加してきました。

双六診療所は岐阜県高山市の双六岳と樺沢岳の鞍部にある山中の診療所です。そこで夏山のピーク期間中に常駐し、登山者の病気・ケガなどの治療に当たっています。スタッフはドクター他、富山大学医学部の学生を含め、計8名で活動しました。

期間中は台風の直撃を受けましたが、幸いにも重症患者さんも無く、比較的穏やかな滞在となりました。診療の合間には双六岳や樺沢岳の散策のほか、鷲羽岳のふもとにある三俣山荘で、同じく診療活動に従事している岡山大学・香川大学の診療所を訪ね、相互の情報交換を行いました。また診療所での待機中はドクターと今期受診された方の診療記録をもとに、高所地帯での疾病についての知識を深めました。

私は看護学生の頃、このボランティア活動に参加したことがあり、当時からいつかは看護師として再度参加したいという思いを持っていました。それから数年たち、今活動に参加できたことは感慨もひとしおでした。滞在期間中は、若い学生さんたちと寝食を共にし、医療に対する強い思いと彼らのバイタリティーに触れ、医療従事者として日々持っていなければならない向上心を改めて感じました。私もこれからの業務に対して、強い向上心を持って取り組もうと決意しました。

今回の天空の診療所での医療活動は、私にとって大変貴重な経験となりました。先生方をはじめ、富山大学の学生さん、山小屋のスタッフの皆さん、今回の社会貢献活動に快く送り出してくださいました。当協会にも大変感謝しております。ありがとうございました。



▲左から金山・増山・松井

平成29年度全国THP表彰 「北陸コカ・コーラボトリング株式会社」優良賞受賞

平成29年度全国THP推進協議会表彰において、北陸コカ・コーラボトリング株式会社様が全国THP推進協議会優良賞を受賞されました。

平成29年7月5日に富山県THP推進協議会を代表して、会長(当協会常務理事)が、表彰状と盾を授与させていただきました。



北陸コカ・コーラボトリング株式会社は高岡市に在り、清涼飲料の販売をしている事業場です。

平成20年よりTHPに継続的に取り組んでおり、全従業員の定期健康診断実施、事後措置の徹底や特定保健指導の実施、その他、インフルエンザ対策、メンタルヘルス、健康企業宣言、禁煙活動の取組み、労働時間削減、クラブ活動費補助助成、企業内家庭教育講座の開講、栄養士による栄養バランスの取れたメニューを社員食堂・寮の食事で提供するなど、社員の健康意識の向上を図り、総合的かつ継続的な健康づくりの活動を推進してこられたことを評価され、このたびの受賞となりました。

第46回「富山県産業衛生大会 THP富山大会」が開催されました

富山県産業衛生大会（THP富山大会）が7月14日「ポルファートとやま」において開催されました。

今年度は、労働者健康保持サービス機関の富山県健康づくり財団が「健康づくり相談コーナー」を開設し、簡易ストレスチェックおよびアドバイスを実施し、富山市角川介護予防センターの健康運動実践指導者より「業間体操」を行いました。

また、平成29年度全国THP表彰の優良賞を受賞されました北陸コカ・コーラボトリング株式会社の総務人事部 福利厚生推進グループ グループリーダー 宮崎としみ氏による「双爽グループのTHPの取組み」と題してのTHP事例発表があり、職場の健康づくりにおける具体的な取組みや課題などを紹介いただきました。

特別講演では、富山県出身で、日本大学名誉教授 林 成之先生の「人工知能時代を乗り越えていく勝負脳の脳科学」と題した講演がありました。

林先生は、脳低温療法を開発し国際学会の会長を務めるなど、脳蘇生治療の第一人者でもあり、また、脳の考える仕組みをスポーツに応用して、近年、オリンピック選手の勝負脳の脳科学などの分野で活躍されています。北京オリンピック競泳の北島選手らの金メダル獲得のほか、ロンドン、リオデジャネイロのオリンピックで多くのメダリストに貢献された時のことや“勝負脳について必要なことは”などの内容で講演されました。



自己採取によるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染検査を開始します!

子宮頸がんの原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染検査を、自分で手軽に行えます!

子宮頸がんが発生する原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)に持続感染することと考えられています。HPVは性交渉により感染し、多くの女性が一生に一度は感染するといわれる、ありふれたウイルスです。通常はウイルスに感染しても、異物を排除する免疫機能により排除されますが、ウイルスが排除されずに長期間感染が続く場合があります、ごく一部の人の細胞ががん化することがあります。

- ★自己採取HPV検査は医師採取HPV検査とほぼ同等の検査結果で、高精度。
- ★病院に行かなくても、HPV検査ができます。
- ★採取は約3分で完了、手順もカンタン。
- ★自分で採取するので、恥ずかしくありません。

子宮頸がん検診は、婦人科専門医による「医師採取法」を受けていただくことが一番の方法です。検診に行く時間がない・不安で受けたことがない方など、子宮頸がん検診を受けていただくきっかけづくり、第一歩としてご利用いただけます。



検査開始日・料金等決まりましたら、ご案内させていただきます。
お問い合わせ：業務渉外課 076-436-1238

胸部X線デジタル化が完了しました

7月に「胸部X線デジタル検診車」を導入いたしました。今回の導入で当協会の長期事業計画で策定されておりました、胸部X線デジタル化が完了いたしました。胸部X線デジタル検診車12台、富山、高岡施設内、ポータブル装置すべての胸部X線撮影がデジタル方式となります。画像の精度の向上に加え、デジタル化によって従来、時間がかかっておりました読影もスムーズになり、比較読影も容易になりました。また今回、導入した車両には出入口に昇降確認モニター、手摺りを設置、車両の装備としてAED(自動体外式除細動器)も搭載されており、受診者の方に「安心」、「安全」のサービスをご提供できます。今後ともよろしくお願いいたします。



新職員紹介



業務渉外課 大窪 郁子

朝は早起きをして愛犬(ぼぼ)の散歩を日課にし、空き時間には趣味の詩吟を吟じてリフレッシュしています。

私自身も健康な生活を心がけながら、業務渉外担当として必要とされる情報を提供・発信し、お客様のご要望にお応えしたいと思います。頑張りますのでよろしくお願いいたします。



広報紙に関するご意見・ご要望等は、健康推進課 林または保井までご連絡ください。
TEL 076(436)1281 FAX 076(436)1240

「第58回日本人間ドック学会学術大会」に参加して

平成29年8月24・25日に埼玉県大宮市で開催された「第58回日本人間ドック学会学術大会」に参加しました。

大会会場は交通の便も良く都心にも近い大宮ソニックシティ。学会発表プログラムや展示など今年も大盛況でした。

奈良理事長から篠原理事長体制に移り、今年初めての試みとして行われた理事長講演では、今後の人間ドック健診の課題として、人間ドックが他に較べどう有効性を持つのか、エビデンスが求められているというコメントがありました。

来年から始まる人間ドック健診施設機能評価Ver.4.0では、健診後に必要なフォローアップ体制の充実が求められることとなります。人間ドックの質向上として医療保険者の予防ニーズに応えていくことが必要です。また、データの評価・活用も大事で、例えば、集団データの中からより効果的なアプローチを見つけ、オーダーメイドのフォローアップに繋げていくことなど色々考えられます。

平成30年度から始まる第2期データヘルス計画に向けて、関係者一同、考えるべきことは多いと思いました。



平成30年度から第3期がスタート

特定保健指導が始まり今年で10年目を迎え、平成30年度からは第3期が開始となります。これまで10年間の特定保健指導の評価や実施率向上に向けての取り組み、第3期に向けての動向などを聴講してきました。

特定健診の平均受診率は50%と目標の70%には達しませんが、受診者が毎年100万人増加し、制度は確実に定着しています。

一方、特定保健指導の2014年時点の平均実施率は18%と目標の45%を下回っており、実施率向上が最優先課題であるとのことでした。第3期は実施率向上のため、行動計画の実績評価時期の見直しや特定健診当日に初回面接を実施するための運用方法の改善、2年連続して積極的支援に該当した者への支援内容の弾力化、通信技術を活用した初回面接の推進など運用ルールが大きく変更となります。

また、特定健診・特定保健指導は、今年度より各医療保険者別に実施率が公表され、2018年度からは取り組み状況や特定保健指導対象者割合の変化などが、後期高齢者支援金の加算・減算率の評価指標のひとつとなるとの説明もありました。

特定保健指導の修了者と不参加者の指導後5年間を比較すると、特定健診のほぼ全ての検査値について改善効果が持続しており、入院外医療費にも差がみられました。特定保健指導を実施することで得られる効果を、事業所担当者や対象者に理解してもらえるよう積極的にアプローチし、実施率向上に繋げていきたいと思いました。

また、特定保健指導該当者の6～8割は、20歳時の体重から10kg以上増加しているため、早期に関わることで、将来、生活習慣病リスクが重なることを防ぐことができると考えました。若年者を対象とした保健指導や栄養教室など健康づくりに関する提案も行っていきたいと考えております。さらに、積極的支援者の男性の4～6割は喫煙者であり、喫煙者本人への支援だけでなく、事業所の環境作りや非喫煙者への講座など禁煙支援者への支援を行うことの必要性を感じました。

保健指導の効果には指導者や指導機関による格差がみられ、職種や経験年数により得意・苦手項目が異なることや研修の評価、資料の標準化が不十分である等の報告もありました。

当協会でも特定保健指導に携わるスタッフが新たに増え、保健指導スキルの評価基準の設定や指導時に使用する資料の統一化、各スタッフの知識や技術の共有を図り、どのスタッフが実施しても同じレベルの指導ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

特定保健指導実施機関として、医療保険者に選んでいただけるよう、今後も努力していきたいと思っております。

